

## 仙台商工会議所と 包括連携に関する協定締結式

6月22日、仙台商工会議所会頭室において、本学 星宮望学長と鎌田宏会頭により、「東北学院大学と仙台商工会議所との包括連携に関する協定締結式」が行われた。

冒頭、鎌田会頭は、「包括連携締結式は、当初3月28日に予定されていたが、震災の影響により約3ヵ月遅れての締結式となった。被災地である仙台経済界の停滞は著しいが、これまでも東北学院の学生たちによる商店街のリサーチや、ご指導いただいた先生方の知力をお借りしていた。今後はさらにその関係性を密にし、『知』による街の活性化、観光復興などにまい進していければと思います」と挨拶。

星宮学長は「今回、包括連携を結ぶことによって、それぞれに特色を有する地域貢献を有機的に結合し、これまで以上に効果的に行うことができると考えています。このたびの東日本大震災によって、東北から地域力が減少していくことが危惧されています。このような状況の中、地域に根ざした事業を展開されている仙台商工会議所と本学が一体となって地域復興に取り組むことは、非常に意義のあることと感じています。そのため、今後展開される取り組みが、東北の復興に大きな力、ひいては東北の地域力がより強いものになっていくことと強く期待しています」と述べた。

今回の協定では、大学の「知」を生かした産業・観光振興、地域づくり、国際交流に関して、学生参加型の産業・観光振興など、東北と仙台経済界の発展に関すること。地域づくり・街づくり・伝統行事など地域活性化の推進に関することなどが盛り込まれている。

これまでも商工会議所の顧問として関わってきた星宮学長ですが、今後はさらに踏み込んだ産学の連携を進めていくことになります。懇談の中では、「東北六魂祭」や「仙台七夕まつり」などへの学生ボランティアの参画、特に東北学院大学災害ボランティアステーションと全国11大学が連携する夏休みのボランティア活動とマッチングした、ボランティア学生の活動を紹介するブース出展案などが話された。さらに、大学の国際交流部の留学生が、在仙企業へのインターンシップに参加するなど、東北・仙台地域のビジネスに関する国際化・国際交流の相互推進についても言及された。国際交流部への留学生、交流のある海外の大学からの留学生に仙台の無事な姿を見て、体験してもらい、帰国後その様子を広く宣伝してもらうことも大切…と、ビジネス・観光、両面の重要性も話し合われた。

16万人の卒業生を輩出し、その多くが東北・仙台で働いていることもあわせ、経済界との連携が生み出す新たな動きが期待される。